

平成30年度第2回奈良県公立大学法人奈良県立医科大学評価委員会議事概要

開催日時 平成30年8月7日（火）10:00～11:10

開催場所 やまと会議室3階大会議室

出席者

（委員）安田委員長、今中委員、竹田委員、任委員、堀委員

（法人）杉山理事、阪本法人企画部長、西浦病院経営部次長、上野財務企画課長

その他財務企画課職員

（事務局）青山福祉医療部理事、西野病院マネジメント課長、森本課長補佐

その他病院マネジメント課職員

議題

- （1）平成29年度業務の実績に関する評価結果について

公開・非公開の別

公開（傍聴者0人、報道関係者 0人）

内容

[議事]

- （1）平成29年度業務の実績に関する評価結果について

・事務局より「資料1」、「参考資料1」及び「参考資料2」の説明

〈地域貢献（教育関連）〉

[安田委員長]

注目される取組の採択については、案のとおりとしてよろしいか。

→意見なし（地域貢献の教育関連に関して、項目に関しては全て採択とする。また、当該項目は「IV」とする。）

〈地域貢献（研究関連）〉

[安田委員長]

注目される取組の採択については、案のとおりとしてよろしいか。

→意見なし（地域貢献の研究関連に関して、項目に関しては全て採択とする。また、当該項目は「IV」とする。）

〈地域貢献（診療関連）〉

[安田委員長]

注目される取組の採択については、案のとおりとしてよろしいか。
→意見なし（地域貢献の診療関連に関して、項目に関しては全て採択とする。また、当該項目は「IV」とする。）

〈教育〉

[安田委員長]

注目される取組の採択については、案のとおりとしてよろしいか。
→意見なし（地域貢献の診療関連に関して、項目に関しては全て採択とする。また、当該項目は「IV」とする。）

〈研究〉

[今中委員]

年度計画には記載されていないが、中期目標の「PubMed 対象の英文学術論文数延べ1,400件を目指す」について、平成25年度から比べると大幅に増加している。これは大変素晴らしいことであるが、どうやってこれを実現したのか。またこのことを本評価で高く評価したいが該当する実績連番がないため評価できない。該当する連番がないことについても説明を求める。

[堀委員]

記載は累積であり、年間の論文数は400件程度である。

[今中委員]

著しくではないにしても、平成28年度から平成29年度で500件以上増えていることから、評価できる。

[堀委員]

1年当たりの差分を記載していただくとわかりやすい。

[今中委員]

平成25年度実績から見ると平成29年度は倍増している。これはなぜか。

[竹田委員]

書いてても報告していなかったものがあつたのではないか。皆さん論文提出に慣れてきて出すようになったと考えられる。

[安田委員]

中期目標の数値目標に関して年度計画入ってきていないものが多い。数値目標を評価できないので「◎」等で評価するようになった。

[今中委員]

単年度で2倍の論文提出数になっていることについて、努力されていることは理解した。

[今中委員]

中期目標「基礎医学系教員育成数」とは何か。

[法人]

基礎医学系教員育成とは、医学研究科の研究医養成コースとして2人、公立大学で唯一枠をいただいているところ。それらの枠に学生を受け入れている人数を毎年2名ずつカウントしている。彼らは将来的に基礎医学系教員の道に進むということで、記載のような実績としている。

[今中委員]

研究医養成コースの卒業生でカウントしているか。

[法人]

入学生でカウントしている。

[今中委員]

分かりました。

[安田委員長]

注目される取組の採択については、案のとおりとしてよろしいか。

→意見なし（研究に関して、項目に関しては全て採択とする。また、当該項目は「IV」とする。）

〈診療〉

[今中委員]

実績連番61の臨床指標について、どれくらい力を入れるかになるのだが、別添資料①のp105 資料19に臨床指標が載っているが、この項目は病院全体の指標であるので各診療科ががんばった様子が見ることができないので、この取組について評価「4」にしていたが、「3」に変更しようと思う。これに関わって取組はしているのか。

[法人]

まず一点はベンチマーク分析をしなければならぬという点がある。どういう数字になるのかを他病院と比較するのであれば、国立大学附属病院の臨床指標を用いるのが適切であると考え。その中で比較をして次のp106にあるように差のある4点については医療の質評価委員会で改善内容の検討を行った。これらの改善を進めるために今年度各担当部署に改善要求を行って、取組を進めているところ。

各診療科の指標が分からないということであるが、この指標が全国的なスタンダードであると考え。

[堀委員]

今の回答はそれでいいと思うが、今中委員は各診療科のがんばりがこのインディケータ一では出てこないことを仰っている。むしろ答えは、このインディケータ一は各診療科がどれだけがんばっているというよりも、全国の病院の平均レベルよりも良いのか悪いのか

を見るための指標なので、各診療科の関与度を評価しようとしているわけでないということになるのではないか。

[法人]

各診療科は、診療科別の平均在院日数、入院患者・外来患者数については「法人運営」に記載しているとおり院長が各診療科部長と面談して目標値を設定した上で評価を行っている。

[竹田委員]

その評価は外向けに公表しているか。

[法人]

公表はしていない

[今中委員]

臨床指標の目指すところのひとつは、医療の質を向上させることである。この指標自体は役に立つと思うが、行った取組を数字も使って改善努力をしようということに関しては一部でしか使われていない感じる。全診療科を巻き込んだ検討に用いられていないということであれば、達成度は低いと考えるため、評価を「4」から「3」に下げる。

[安田委員長]

評価を下げるのはこの項目だけか

[今中委員]

実績連番61のみである

[堀委員]

第1回評価委員会で質問した項目であるがインディケータについて、一般の大学病院よりもインディケータを多く設定している。その努力については、評価すべきであると考え。何項目選ぶのかは基本的には自由であるが、病院機能評価でも評価項目に挙がっているのも、たくさん上げているのは良いことであると考え。個々の項目の評価の点数は本評価委員会では評価しないで、インディケータを設けて他病院と比較して努力目標を設定していくような姿勢を評価すべきであると考え。解釈の仕方はいろいろあると思うが、前向きに取り組んでいるということは評価すべきであると考え。

[安田委員長]

今中委員の点数変更がありました。項目の点数としては変わらないがよろしいか。また、注目される取組の採択については、案のとおりとしてよろしいか。

→意見なし（診療に関して、項目に関しては全て採択とする。また、当該項目は「IV」とする。）

この項目において出た意見は来年度の業務実績報告書において反映していただきたいので、法人の方よろしく願いたい。

〈まちづくり〉

[安田委員長]

注目される取組の採択については、案のとおりとしてよろしいか。
→意見なし（研究に関して、項目に関しては全て採択とする。また、当該項目は「IV」とする。）

〈法人運営〉

[安田委員長]

注目される取組の採択については、案のとおりとしてよろしいか。
→意見なし（研究に関して、項目に関しては全て採択とする。また、当該項目は「IV」とする。）

〈全体評価〉

[今中委員]

医師派遣に関して、医局訪問34回等を実施し、5病院12名の派遣を行ったとのこと。平成28年度は南奈良総合医療センターへ33名派遣していることも含めて、取組として非常に困難なことであると思うので、評価の点数を上げようかと考えているところだが、活動について説明を追加することがあれば説明を願う。

[法人]

医師派遣については、知事の非常に強い思いをあって、項目1番に挙がっているとおり、大学の地域貢献として県内の特に医師の確保の難しい病院等に派遣をする、それが大学の使命であるということで積極的に取組を行っているところ。派遣を実施するために、医師派遣センターと県費奨学生派遣センターを設置し、ともに同じ教授が専任ということで担当している。従来各病院は各診療科に医師の派遣を要請しても、なかなか人がいないのでと言って進まなかったのが現状であったが、センターでは教授が医師派遣のルールを作成し、教授の一存ではなくて大学としてしっかり受け止めて、また場合によってはセンター長がともに学長が担っているので、学長にも相談して対応を協議して進めているところ。とりわけ委員ご指摘の南奈良総合医療センターについて、吉野地域で従来公立病院が3つあったが、初期臨床医制度が始まる前は70名程度いた医師も40名ほどに減少し、病院が成り立たない状況となった。そこで県と地元が話し合っって病院の再編を実施し、病院数は減っていないが、急性期をひとつにして慢性期をふたつにすることによって、いろんな診療科の医師をきっちり置くこととして、それを大学が全面的に支援しなさいとなった。なので最重点病院ということで人手が厳しい中であつたが、南奈良総合医療センターに派遣をしたところで実績が出ている。冒頭申し上げたとおりルールをしっかり作って今後できるだけ派遣できるようにしていきたいと思う。そのひとつの大きな資源としては、県費奨学生が徐々に現場に入ってくる段階となっている。しかし若手医師は当然指導医とワ

ンセットでなければキャリアパスの形成ができないので、その点は悩みどころであるので、若手医師と指導医をどう組み合わせるか、効率的に配置するという事をセンターで検討しているところ。

[堀委員]

非常に良く取組されていると考えるが2点質問があって、1点目は「派遣」という言葉がどうしても引っかかっている、これで良いのかと感じる。基本的には医師の働く職場の選択はいわゆる株式会社とは異なるというのは基本的な考え方である。しかしこのようなことを言っていると知事の要望には応えられないので、(株式会社と)同じようにしているということだと思う。言葉としては「適正配置センター」としていただいた方が良いと考える。知事の思い入れが強いこともあってこのようになっていっていると考えられるが、問題が生じる場合に、対処しておかないとネガティブな問題の火種になりかねないと思うのでご意見をひとつ申し上げる。

2つ目は、評価の問題である。各委員の評価点数を見ると、私の点数が辛いように見える。元々評価の点数の付け方は、目標に書かれてその目標を達成したら「3」以上、その中でよりがんばっている取組には「4」にしているが、ベースが「4」であれば「3」というのはなくなってしまうことになる。あくまでも評価は個人ごとのベースがあるが、元々スタートしたときは目標に対してどれだけ達成できているかで評価をしているので、私は比較的忠実に踏襲しているつもりである。ただしこの評価が補助金に反映されるのは理解しているので、できるだけ高い点数をつけてあげたいという気持ちはある。この評価結果で表すのは、以前も話したが例えば評価に特別なコメントをつけたりなどをして良いと考える。評価のスタンスと実際のアチーブのレベルはミックスするのかどうかによって点数の付け方が変わってくると考えるので、委員会で合議することが大事であると思う。評価点数を上げる際には、評価の基準を満たしているのかどうかを検証する必要があるので、例えば特記項目のように定性的な書き方もあると思う。非常に良くやっていたいておと思うので、うまく運営していただきたいと思う。

[安田委員長]

みなさんご意見いかがですか。

[竹田委員]

最初、堀委員に近い形で評価を行っていたが、前回の委員会で「3」だったものを「4」に変えるということがあって、今の形になっているところ。私の在籍する国立大学法人は90近い大学がひとつに並べられて評価される。従って特筆すべき取組や、注目される取組は各大学に1個か2個あれば良いくらいである。そうでなければ国立大学並べたときにどこががんばったのか見えてこないからであるが、県立医大は法人唯一の大学・附属病院であるから、国立大学と同じような比較方法ではいけないのかなと思う。1年間やってきた中期目標・中期計画に係る取組としてきちんとしてきた取組を県民に何をがんばったのか何が良かったのかをきちんと示す、そしてその上で評価されて補助金に影響するという

ことになっていくと思うが、全体評価の中は私たちや関係者が見れば内容が分かるが、一般の県民の皆さんが見ても分からないと思う。例えば、「附属病院屋上にヘリポートを設置し、ドクターヘリの運航体制を強化した。」について、ヘリポート作ったらドクターヘリを飛ばすのは当たり前だろうと思う人もいると思うので、作ることによりドクターヘリの運航体制を強化し、地域医療のニーズに対して更なる機動性を確保した等、全体評価ではこれで良いと思うが、広報等で用いる際はもう少しわかりやすくすることによって、誰が見てもがんばってるなと思えるような表現にしていきたい。

最初は厳しく評価点数をつけるつもりだったが、法人として県の中でどういう立場なのかということで、国立と同じやり方はだめだろうなと思い途中で評価を変えた。

[安田委員長]

先ほどの評価点数変更は今中委員の個人評価を「4」に変更するというのでよろしいか

[今中委員]

個人評価を「4」に変更する。

[安田委員長]

全体の評価としては変動がないので、〈地域貢献（教育関連）〉評価は「IV」のままとする。

先ほど今中委員よりご意見ありました実績連番1の文章表現の変更について、ご意見いかがですか。

[今中委員]

もう少しポジティブに記載しても良いのかなと考えたが、まだ案が提示することができない状況。

[安田委員長]

評価委員会としては、業務実績報告書の右側に記載されている年度計画に関する記載内容を見て評価をせざるを得ない。従って報告書に出てきていないものについては、こちらで解釈して書き換えることはできないので、法人側がいかにアピールするかであると考えられる。法人には業務実績報告書できちっとアピールできる形で記載していただくようお願いする。

[堀委員]

今年度の法人評価は、書き方が非常に上手になっている。要するに自分で掲げた目標に対してどうかということを端的に表されていると感じた。評価には入っていないが、法人にこの点は評価したいと思う。

また年度計画の重複についてはもう少し何とかならなかったかなと思う。

[竹田委員]

私の印象を申し上げると、重複の問題も含めて項目が多すぎると思う。ただ、この項目

が全て同じウエイトかというとは違うと思うので、項目ごとにウエイト付けをしていただいて、点数付けをしていただきたい。結果あまり変わらないのかもしれないが、法人として何を重要と考えて取り組んでいくのかが分かると思うので、次期中期目標・計画検討の際には、検討していただけたらと思う。

[今中委員]

重複の件について、例えば血栓制御に関する取組は3回記載されていることによって、他の計画より3倍の重み付けがあり、バランスがおかしくなっている印象を受けた。

次に中期目標について、年度計画を達成していても必ずしも中期目標が達成できないような形になっているので、両者の整合性をチェックしていく必要がある。この点を次期中期目標・計画でも考慮していただきたい。

[安田委員長]

次年度の目標及び次期中期目標・計画について、委員よりご意見いただいて事務局の方で反映していただきたいと思う。

年度計画の重複についてはなるべくないようにしていただきたい

[安田委員長]

それでは、文面については、各委員へは事務局からメール送付させていただき、ご検討願いたい

→意見なし（全体評価に関して、項目に関しては全て採択とする。）

最終的な評価結果については、委員長に任せていただき、各委員へは事務局からメール送付させていただくのでご確認いただきたい。また、本委員会の評価結果を法人に通知し、知事に報告する。

(議事終了)

・事務局より今後の日程説明

